第Ⅴ章　小学校教育実習要項

1　学校運営…… 69

2　学級経営…… 70

3　教育課程…… 73

4　小学校の学習指導方法及び学習指導案作成…… 74

5　各教科の指導…… 80

6　複式学級の指導…… 93

１　学校運営

（１）学校運営の意味とねらい

①　意味

学校運営とは，教育の目的を実現するために，すべての教育活動がより効果的に推進されるように人的条件，物的条件を整備し，校長を中心として学校として組織化し，学校の教育効果を高める機能を指す。

学校運営の具体的な領域としては，①教育目標の設定や教育課程の編成・管理等の学校教育管理，②教職員や児童の人事管理，③施設設備等の物的管理，④学校事務の管理に分けることができる。

②　ねらい

学校運営に当たっては，教育の目的及び学校教育の目標達成を最終のめあてとして行われなければならない。教育の目的及び学校教育の目標は，教育基本法及び学校教育法に規定されているが，これを端的にいうならば，充実した学校生活を通して，豊かな人間性を備えた子供の育成を目指し，その成長発達を図ることである。

学校運営においては，地域社会の要求，一般社会の要求の調和を図り，学校教育目標の達成に向かって全人格的な成長を促すことを目指さなければならない。

（２）学校運営のための組織

学校運営を具体的に推進するためには，学校の教育目標の設定，諸規程の整備，校務分掌の明確な組織付け，学年・学級経営方針の設定などが大切である。

①　学校の教育目標

学校の教育目標は，教育活動を方向付けるものである。この目標は，子供の実態に基づいて，育てたい子供像を想定し，具体的に設定されるものである。

②　学校の諸規程

学校は，計画的・組織的に公教育を実施する組織体である。したがって，学校が効果的な教育活動を推進するためには，法令や規則の規定に基づいて各種の学校諸規程を定め，これらの運用を図らなければならない。

③　校務執行の補助機関

ア　教　　頭

教頭は，校長を助け，校務を整理し，校長が事故または欠けた場合，その職務を代理し，または行う。

イ　職員会議

職員会議は，校長を中心に職員が一致協力して学校の教育活動を展開するため，学校運営に関する校長の方針や様々な教育課題への対応策についての共通理解を深める場である。

ウ　学校評議員

保護者や地域住民の信頼に応え，家庭や地域と連携協力して一体となって子供の健やかな成長を図っていく観点から，より一層地域に開かれた学校づくりを推進していくために位置付けるものである。

④　校務分掌の組織

校長は学校の責任者として分掌組織を考え，組織体として学校が円滑に運営されるようにする。分掌組織は学校規模等を考慮し，実情に即したものを工夫し，それぞれの職員が分担した校務の処理を通して学校運営に参画していけるようにすることが大切である。

2　学級経営

（１）学級経営とは

学級経営とは,「学級における指導の総体」即ち，学級担任の全ての仕事である。子供の登校から下校まで，学校における全時間を通じてあらゆる場面で行われる。

（２）学級経営の考え方

学級経営に明確な定義はなく，学級経営が学級担任の全ての仕事に関わる用語であるが故に，教師によって学級経営の考え方が異なることも少なくない。学級経営の考え方には大きく，以下のようなものがある。

・学習指導のための条件整備

教師の仕事の中心は教科の授業であり，学級を整備することで学習指導の効果を上げようとすること。学校及び教師を中心に据えた学級の経営技術を重視した考え方であり，学力向上や問題行動の予防と関連する。

・よりよい人間関係，学級集団づくり

学級経営への子供の参画を尊重するもので，人間関係や集団の文化を創り上げることでよりよい学級集団にすること。子供の多様な個性や仲間との協働を重視し，人格の完成を目指した「生きる力」の育成と関連する。

また，学級活動を中心とした特別活動の「自主的・実践的な態度」「自発的・自治的な実践的活動」とも関連し，しばしば「学級づくり」と言われることがある。

（３）学級経営の要素

①　環境構成

子供に対しての直接的な働きかけのみならず，学級経営を行うために必要となるあらゆる業務のこと。掲示物や机配置等の教室環境や学級だより(学級通信)の作成，家庭との連携などが考えられる。また，ワークシートやプリントの作成，テストの採点業務などの事務的な業務も含まれる。

例）

・整然と貼られた掲示物から子供が美化意識をもち，意図的な机配置から学びやすい環境がつくり出される。

・教室での出来事や子供のがんばりを学級だよりで伝えることで，子供が自分の成長を自覚し，次の活動への意欲につながる。

・学級目標を教室に掲示することで,「今の自分たちは学級目標に近付いているか」を常に意識することができ，「目標→実践→振り返り」のサイクルを形成することができる。

②　指導的領域

教室にルールをつくり，継続した指導を行うことで習慣化して秩序を形成すること。多様な個性をもった子供が集団で生活を送るためには，ルールが必要である。特に,「黄金の３日間*[1]」,「３・

７・３０の法則*2」などと言われるように，年度がスタートする４月は指導的領域が強くなる時期である。明確なルールのもと，子供の人権が侵害されることなく安心で安全に過ごすことができるようにするための重要な領域であると言える。

例）

・初めに「いじめは絶対に許さない」「命にかかわる危険なことをしたときは徹底的に指導する」など，教師として最も大切にしていることを伝える。

・一人一役の当番活動や給食配膳のシステム化などを行い，子供が混乱なく学級生活を送れるようにする。

③　自治的領域

この領域は，日本の学級経営に特徴的なもので，子供が自らよりよい学級にするために自主的に活動を行うものである。欧米では，教科ごとに教室を移動し，教科によって集団のメンバーが異なるが，日本は年間を通じて同一メンバーで集団が構成されており，「学級」こそが，学習や生活の単位となっている。

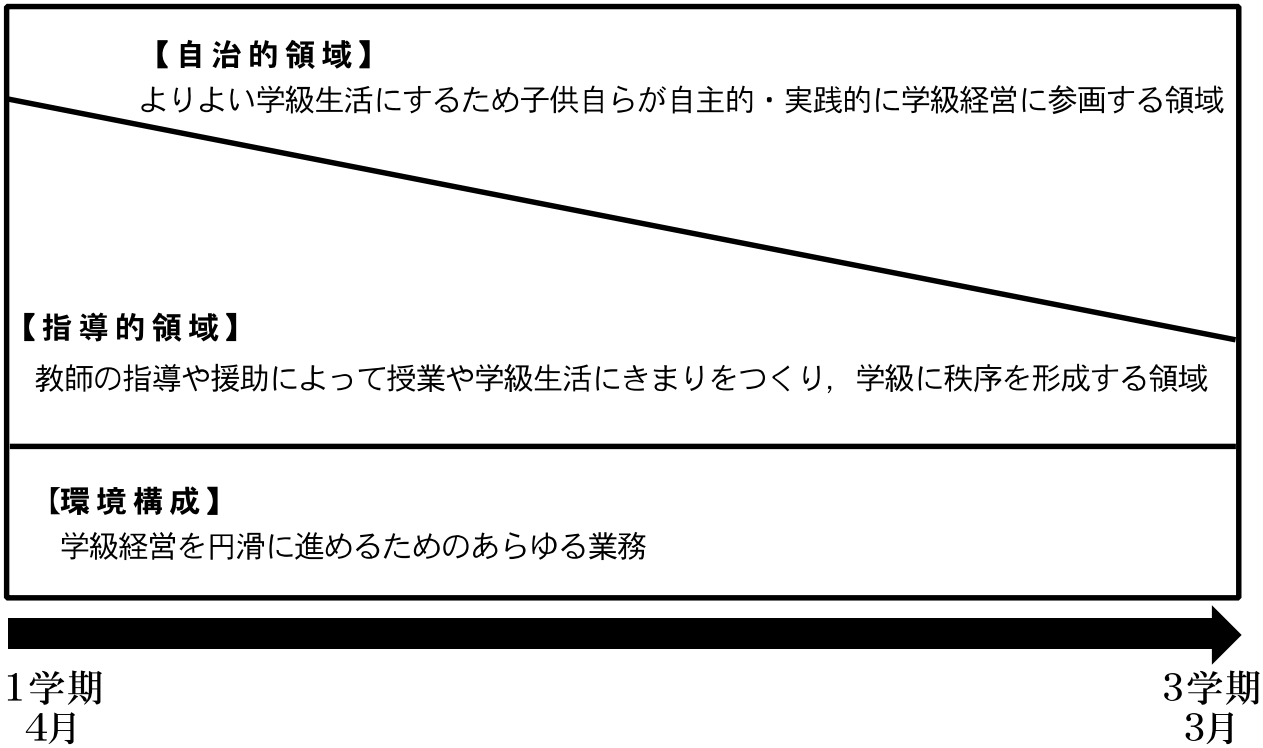
例）

・学級新聞の作成や学級スポーツ大会の開催など，係活動で，児童の創意工夫で楽しい学級を作り上げる。

・１学期の目標達成パーティー，学級の畑で収穫した野菜で調理イベントの開催など，集団としての一体感を高める。

・学級で起きるトラブルも自分たちで話し合い，仲間と協力して解決する。

表：学級経営の要素関係図

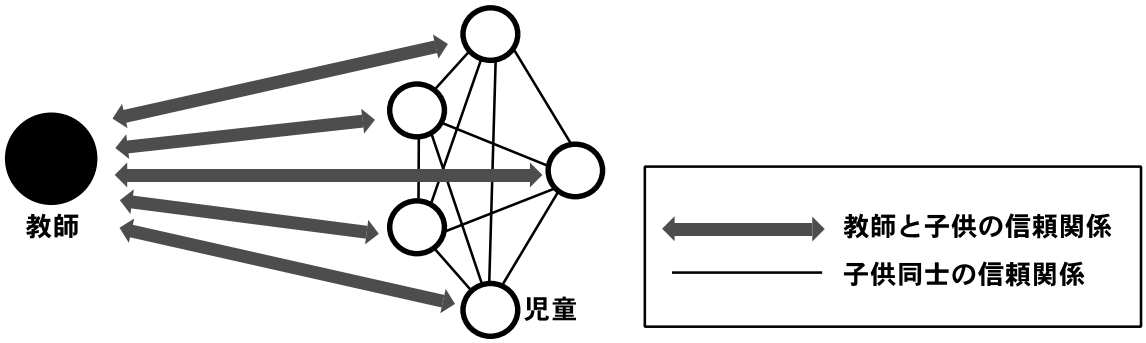


３つの要素がいずれも欠けることなく，計画的に学級経営を行うことで学級に支持的風土が形成され，子供の成長に大きな効果をもたらす。なお，指導的領域と自治的領域は時期によって意図的に比重を変えて指導が行われる。年度当初は，指導的領域の比重が高く，その後はゆるやかに自治的領域の比重が高くなっていくのが一般的である。

（４）信頼関係の構築と教師の役割

①　信頼関係

学級経営を進める上で重要なことは，教師と子供の信頼関係を築くことである。まずは，教師と子供一人一人との信頼関係を築くことに重点を置く。その後は，子供同士の信頼関係を築くことに重点を置き，学級集団として高めていく。



②　教師の役割

・子供に指導が必要な場合に毅然とした態度で，厳しく接する。【厳しさ】
・丁寧な説明とリーダーシップで学級が進むべき方向を決定する。【決断力】
・笑顔と優しい語り口調で子供に接する。【優しさ】
・子供の話を受容的に聞くようにする。少しゆっくり話す。【安心感】
・笑いやユーモアを交えるなど，子供の話の中に入る。【無邪気】
・教師の好きな給食メニューを紹介したり，子供が好きなアニメ，ゲームの話をしたりする。【親しみ】

＊１ 年度が始まる最初の３日間が非常に重要であり，１年間通用する約束事やルールを決めることで学級経営を円滑に進められるという考え。

＊２ 最初の３日間，７日間，３０日間で段階的に指導事項を増やしていき，学級に秩序を形成しようとする考え。

３　教育課程

（１）教育課程の編成

教育課程とは，教育目標を達成するために，学校が総合的に組織した教育計画である。これは，カリキュラム（Curriculum）とも呼ばれており，日常の教育実践は，これによって推進される。

教育課程の編成の基本的な要素は，学校の教育目標の設定，指導内容の組織，授業時数の配当の三つである。教育課程の編成については，法的にもいくつかの規定がある。

・学校教育法施行規則

・小学校学習指導要領など

教育課程は，法的な規定を踏まえて，学校の教育目標を達成するためにどうあればよいかについて，全職員で研究，討議し合って，学校で編成しなければならない。

（２）教育課程編成の問題点

教育課程は，教育目標を達成するための総合的な計画である。しかし，ややもすると，教育活動を行うに当たって，学校の教育課程などを無視したり，まるで教科書を教育課程のごとく考えている場合さえ見受けられたりすることがある。

教育課程を編成し，実施する上で，一般的には，次のような問題点が見られる。

・地域や子供の実態等を考慮して，全職員の協働によって編成するものであるということを考えていない。

・教育目標が飾りものとして掲げられているだけで,具体的に教育課程の中に生きていない。したがって，各教科，道徳及び特別活動それぞれの指導の重点も不明確で，一人一人の教育実践も教育目標の具現を目指して進められにくい。

・各教科，領域ごとに作られた年間指導計画が，全体として調和がとれていないものとなり，指導内容も重点化されていない.

・それぞれの学校の独自性と主体性をもった，本当にその学校の子供の教育にふさわしい教育課程になっていない。したがって，教師の指導も消極的で生き生きとした教育活動が進められない。

・実践の後の反省と評価が具体的に行われないため，教育課程の改善につながらない。学校が組織的・計画的に教育実践を進め，人間性豊かな子供を育て，社会と時代の要請に応えていくためには,常に,全職員の力で,よりよい教育課程を求めて行かなければならない。

（３）附属新潟小学校の教育課程

変化の激しい社会の状況に対し，これからは未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育の実現が求められる。

当校では，これからの社会の様々な困難や課題に直面するであろう子供たちが，目的や課題に応じて自らよりよく課題解決し，豊かな人生を送ることができるようにするために**「豊かに考える子供を育む教育課程」**を編成した。

豊かに考える子供とは，目的や課題に応じて様々な資質・能力を発揮し，課題解決する子供である。学習活動だけでなく，学校教育において実生活や実社会において豊かに考える子供を目指している。それと同時に，自ら目的を達成したり，課題を解決したりするために必要な資質・能力を育成する。そのために，次の視点で教育課程を編成し，実施している。

○　育成する資質・能力（知識・技能，思考力・判断力・表現力，態度（学びに向かう人間力））の設定
○　豊かに考える子供を育み，資質・能力を育成する各教科の授業づくり
○　豊かに考える子供を育み，様々な教科等の資質・能力を育成する教科等横断的な単元開発
○　すべての学習の基礎となる資質・能力（協働性・ツール活用能力）を育成する取組
→「附属新潟式学級力」「学習スキル」を高める取組，ICTの活用
○　豊かに考える子供を育み，資質能力を育成するカリキュラム・マネジメント
→校時表，年間指導計画，学校行事等の弾力的な改善

豊かに考える子供を育み，資質・能力を育成する教育活動は，今求められている「主体的・対話的で，深い学び」を実現する教育活動であり，当校では，このような教育活動を具現することができるようにするための教育課程を編成，実施しているのである。

４　小学校の学習指導方法及び学習指導案作成

＊第二部第Ⅲ章　「学習指導及び学習指導案作成の基礎・基本」参照

＊＊
◆参考資料１

学習指導案の立て方

新潟大学附属長岡小学校

1 「授業」とは

（１）「学び手である子供」「教材」「教師」の３つの要素の相互作用である。

（２）教材を媒介として，子供が仲間や教師との双方向的な情報の流れを維持・発展させながら，認識・技能などを目標の方向に形成していくための実践的な過程・活動である。

（３）授業の組織・展開は教師が行うが，学習活動は子供主体の活動であり，教育的な価値の実現は，子供においてなされなければならない。

（４）授業は，子供の成長を見通した意図的・計画的な教育の営みである。

2 学習指導案について

（１）仮説としての授業設計

①　授業設計の意義

「授業を設計する」とは，指導内容，教材，学習環境，教師の支援等によってもたらされる効果を予測しながら，教師自らの教授活動を予測・立案していくことである。このことは，仮説（授業設計書「学習指導案」に書かれた授業過程によって期待される成長プラン）を形成することである。この仮説は学び手である子供一人一人の成長を願って立てられるものである。

②　学習指導案の役割

学習指導案は，上記の授業設計を，ある書式によって具体化したものであり，「子供の学習活動の構想」である。それは，教師の「授業構想」でもある。

そこで，次の点が重要になってくる。

ア　どのような子供に
イ　どのような目標を立て（どのような成長を期待して）
ウ　どのような方法で
エ　どのような展開をすればよいか

③　学習指導案を書く意味

○　授業をどのように行うかの指針をもつため。
　（指針であり，修正されるものであることを前提にしている）
○　授業がどのように行われるか，第三者が理解できるため。
○　自分の授業を振り返り，評価し，次の授業に生かすため。

（２）学習指導案の形式

学習指導案の形式は，授業実践の目的に応じて様々である。各学校，及び研究内容によっても変わってくる。ただ，各項目が有機的に結び付き，子供の学習が具体的にイメージできるようにすることが大切である。

3　学習指導案の作成･実行･評価の手順

（１）授業前

①　子供をとらえる（観察・どのような子供か仮説を立てる）**。**

↓

②　単元（主題・活動）＜教育内容の一つのまとまり＞を決める。

※　年間活動計画等を参考にする。

↓

③　単元の目標を明らかにする。

※　学習指導要領等を参考にする。

↓

④　教材を選択する。

ア　目標から検討する。
イ　子供の実態から検討する。
ウ　安全性，地域性，季節などから検討する。

↓

⑤　指導計画を立てる。

※　教材の構造化を図る（子供の意識の連続・発展）。

↓

⑥　本時の計画を立てる。

ア　本時のねらいを設定する（単元の目標との関連を図る）。
イ　展開の計画を立てる（子供の意識の連続・発展）。
ウ　評価の観点・方法を明確にする。

（２）授業中　＜子供の動きを見取る＞

①　子供を肯定的に見る（子供のどのような動きも，授業を動かしている）**。**

②　焦点付けて見る。

○　教師の支援の場で
　　発問・指示・説明・助言・板書・机間支援・資料提示の際の子供の反応で。
○　子供の活動の場で
　　話し合い（発言・聞く）・表現・実験・体験的な活動などでの子供の様子で。

③　授業評価とのかかわりで見る。

○　本時の主眼から角度付けて見る。

④　子供の細かな反応を大切にする。

○　うなづき，首かしげ，表情，等。

⑤　見取ったことをメモする。

○　座席表等にメモし，その子供の記録として残していく。

（３）授業後

①　諸資料を基に，授業を分析し，検討する。

○　子供の意識の流れを洗い出し，分析する。
　　子供に授業者が期待した成長が見えたか。また，効果的だった要因・阻害した要因について検討を加える。

②　総括的評価をする。

③　学習指導案を再構成する。

♦本校の教育実習における学習指導案の形式

本校の学習指導案の特色

(1) 子供の追求問題（◎）を大事にする。

子供が「自分でこのことを追求していく」ととらえたものが◎である。学級で１つの場合もあるし，複数存在する場合もある。

基本的には教師から与えられたものではなく，**子供自らが問題にしていること**でなければならない。つまり**「教師が問うから考えてみる」ということではなく，「このことがはっきりしないから（みんなで）追求していきたい」ということ**である。この◎の質がその後の追求に大きく影響する。

(2) 内容仮説，方法仮説の妥当性を検証する過程を大切にする。

子供は自分のもった問いの解決に向けて，「こう考えたらどうか」と仮説を立てる。これが「内容仮説」である。そして「こういう方法で考えたらどうか」と解決方法を立案する。これが「方法仮説」である。内容仮説，方法仮説の妥当性の検証を繰り返すことで，子ども自らが追求し，学びが深まっていく。

(3) 子供の成就感・満足感を大切にする。

成就感・満足感は，単なる「わかった」「できた」ではない。「こう考えたからできた」と自分の立てた仮説が正しかったことに満足感をもったり，「こういう方法で取り組んだらできた」と自分の立てた方法が妥当であったことに成就感を感じたりする姿である。また「今度はこういう学習をしたい」「生活の中で生かしてみたい」と次の学習や生活につなげていこうと意欲に満ちている姿である。このような姿を大切にしたい。

第○学年○組　○○科　学習指導案

○月○日（　）○校時
指導者　○○　○○

１　単元名（主題・活動名）　○○○○

２　子供と単元（主題・活動）
（１）子供の実態
・本単元（主題・活動）にかかわる子供の①興味・関心，②知識・理解，③問題追求の傾向性を記述する。

（２）主な指導内容
・指導内容とその位置付け（系統）を記述する（学習指導要領を参照のこと）。

３　単元（主題・活動）の目標
・本単元（主題・活動）における　　の学びの様相と，（理解し）気付き，できるようになってほしいことを記述する。

４　評価基準

５　指導の構え
・本単元（主題・活動）の「どこを」「どのように」留意して指導しようとするかを記述する。

６　指導計画　配当時間○時間　本時○次　○／○時間
１次
２次
３次

7　本時の指導計画

（1）本時のねらい　　※単元（主題・活動）の目標との関連を意識する。

（2）展開

段階	子供の追求の広がりや深まりと教師の支援	留意点
問いの発生（分） ／問いの解決（　分）	子供の意識 （本時のスタートの子供の意識を書く。） Ｔ１○○○○○○○○○○○。 子供の意識 （主要な発問や指示などを書く。） **◎　～は，～なのか。** Ｔ２○○○○○○○○○○○。 子供の意識 Ｔ３○○○○○○○○○○○。 子供の意識 ・複数の反応を予測し，○○さんならこのように考えるなと予想してかく。 ・複数の反応（重なりやずれ）を生むことができるかどうかが，子供の中に問題が成立するかどうかの大切なポイントである。子供が問題を持たないと，１時間の授業が，単なる作業で終わってしまうおそれがある。 ・終末の意識が次の問題につながっていくことが大切である。	※指導の手だてについて留意すべきことを記述する。 ＜例＞ ・どんな教材を提示するか。 ・どんな考えとどんな考えを取り上げていくか。 ・予想した反応が出ないときはどうするか（代案）。 ・個別にどんな支援をするか。 ・板書 ・学習形態 等 評価

（3）評価方法

※　略案の場合は，Ａ４　１枚に「６　本時の指導計画（１）（２）」を記述する。

※　詳しくは、示範授業の活動案を参考にすること。

※　学習指導案の形式は，実習校の形式を使用する。

◆実習生の授業

（１）よい点

①　情熱にあふれ，表情が生き生きとしている。

②　手間をかけた教材が準備され，若さや柔軟さから生まれたアイデアがある。

③　休み時間には子供とともに汗を流して遊び，一生懸命に準備して授業に臨むことが，自然に子供の共感を呼んでいる。

（２）問題点

①　その時間に追求する問題（◎）が不明瞭。

②　子供に考える時間を与えない。
・沈黙は子供が考える大事な時間である。沈黙を恐れて，発問を言い換えてばかりいたり，少数の挙手児童にすぐ指名したりすることが多い。

③　子供が問題にしていることや，やりたがっていることに関係なく，プラン通りに先に進めようとする。

④　子供の発言の枝葉末節の部分に振り回されて，その時間の大切な指導内容を見失ってしまう。

⑤　子供の発言を，教師が「そうですね」「とってもいいですね」と評価してしまう。
「今の考えをどう思いますか」と全体に返すことがない。

⑥　板書の構想をもたなかったり，字が小さすぎたりするために，子供の考え方のずれが，鮮明にならない。